

講義名	中国語 B			
担当教員	関 梅			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

<b>主題と概要</b> この授業では中国語の基礎を学びます。 中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんとして読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を持つとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようにしたいものです。 テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える思われた環境にあります。字んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。
---

<b>到達目標</b> 1. 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につけます。 2. 簡単な中国語を聞き、音調や状況に応じた応答ができるようになる。 3. 基本的な文の意味を理解でき、書くことができるようになる。  なお、新型コロナウイルス感染症の感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。
---

<b>提出課題</b> 毎回の授業では、学習内容の理解状況を確認するため、トレーニング用のプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行います。また、毎週課題のプリントも配布します。
---

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> 提出した課題については、解説を行った後、受講者に自身の結果について確認させます。最後に、受講者に共通する問題点について、重点的に復習をします。
---

<b>評価の基準</b> 本講義の評価基準は毎回の講義の受講態度と提出物、小テスト及び中間テストと期末試験の成績により総合的に評価をすることを基準とします。 具体的な割合： ・平常点（授業中の受講態度、課題の提出、小テスト）30％ ・中間テスト30％ ・期末テスト40％
--

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> 外国語の授業は実践的なものなので活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価します。教科書を持って来ないことや、始終スマホを操作していることなどのような行為は大きなマイナスポイントとなります。新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの変更が生じる可能性があります。
---

<b>教科書</b> ・発音重視！中国語初級マスター22.	阿部慎太郎・紅粉芳恵・関梅	金星堂	2500	
----------------------------------	---------------	-----	------	--

<b>プリント資料及び参考文献</b> 必要に応じて配布します。
-------------------------------------

<b>授業計画</b> 1. 発音編 1. 声調・単母音・字音・数字0-99 2. 発音編 2. 複母音・鼻母音・轻声・年月日 3. 第1課 自己紹介をする 4. 第2課 行き先を聞く 5. 第3課 雑談をする 6. 第4課 家族構成を聞く 7. 第5課 スケジュールを聞く 8. 前半総復習および中間試験 9. 第6課 待ち合わせをする 10. 第7課 機内食を頼む 11. 第8課 SNSで連絡を取る 12. 第9課 道案内をする 13. 第10課 待ち時間を伝える 14. 第11課 趣味の話をする 15. 総復習 授業の進度はクラスの状況に合わせて適宜調整します
---

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 語学の習得は授業外での努力も欠かせないため、毎回の授業後、復習、予習課題があります。そのため勉強時間も確保しなければなりません。 目安として、毎日の学習時間は一日40分程度を必要とします。
---

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> この講義は、1年生から履修可能な外国語関連科目で、中国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）について実用的かつ基礎的な語学力を修得するとともに、合わせて海外の社会や文化について学ぶことができます。
--

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b> 本講義では基本的にICT活用をして授業を進めていく。文法説明や課題の答え合わせなどについてはすべてBigpadで行い、Quizlet、KahootもBigpadを利用する。
---

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>